

常温硬化で、完全止水。

本管、取付管、そして接合部。
小口径φ100から大口径φ900以上の、あらゆる管きよに対応。

小口径部分補修
EPS φ100~800
EPS (0.63m)

部分補修ロングタイプ
EPL φ100~600
EPL (1~3m)

大口径部分補修
工アーモールド φ900以上

本管・取付管接合部
**EPF 本管 φ150~800
取付管 φ100~200**

大口径本管・取付管接合部
**EPM 本管 φ800以上
取付管 ~φ300**

マンホール・本管接合部
EPI φ150~300

取付管更生
EPR-LS φ100~200

EPR工法の特長

- 水中自然硬化
- 補修箇所をピンポイントで施工
- 硬化収縮が強めて小さい
- 事前の止水が不要
- 管路供用中の施工が可能
- 臭気問題が発生しない(ノンスチレンで悪臭なし)

EPR工法協会

愛知県支部
〒451-0051 名古屋市西区則成町1-3-5 (菊山緑内)
TEL.052-571-9977

会員募集中

鹿児島支部/株式会社山崎 東京管業興業 鹿和建設社 サンシールパテ 練馬管工務店 鶴山建設 練都市管業 朝日工業 鶴大建設 小原建設

■工法概要

【EPR工法】ガラス繊維に常温硬化性エポキシ樹脂を含浸させたライニング材を現場硬化させる部分補修工法。水中でも短時間で自然硬化する高性能樹脂を使用した供用中の施工が可能となるほか、EPS、工アーモールド、EPL、EPR、EPM、LS取付管からなる豊富なバリエーションで、小口径から大口径の部分補修、さらに取付管更生、人孔補修まで対応する。

■中部地方での主な採用事例

西部管路センター管内ほか
下水本管(中大口径管)部分補修工事

【発注者】名古屋市上下水道局

【工事期間】令和5年10月~6年3月

【工事場所】名古屋市熱田区花表町他始め18カ所
(熱田区、港区、北区、中村区)

【既設管径】φ800、900、1000、1100、1500、1650mm

【採用工法】EPR工法

【施工延長】50カ所(補修幅0.6m)

【工事・工法の所感】名古屋市内の下水本管は、布設からかなりの年数を経過している管が多くなっているため、老朽化した下水本管の全を一度に改築を進めることは困難である。下水本管の目損による内部調査で判明したクラックや目地および破損箇所では、ニュー管取替の適否等、重症度とも確認されているが、現時点で全体改築が必要ない下水本管の重症の破損等の箇所は、内部の状態を踏まえた上で、部分補修を行うことで延命対策を講じている。施工では、地上で合着する良層から補修材の硬化が始まるため、管内温度や硬化時間の管理に注意を払いながら工事を実施。マンホール周辺と作業用スペースのみを用いることで、通行への影響を軽減した比較的コンパクトな占用帯で施工を行うことができた。



管内での施工

EPR工法協会

【現場詳細資料】

既設管径：φ 1650mm

採用工法：EPR 工法（エアーモールド）



【 施工前 】



【 施工中 】



【 施工後 】